

伝産×○○のシナジー（CASE 6：下出蒔絵司所）

●ポイント

京都の伝統産業素材・技法を腕時計の文字板とベゼルに活用
異業種（先端産業企業）における伝統技法の活用により、蒔絵の魅力を発信

●経緯

下出代表は京仏壇の伝統工芸士であり、かつ漆に関する研究者でもあることから、尾池工業株式会社との共同研究（平成27年）にて「漆黒調積層体（新素材の蒔絵材料）」の開発、日本電気株式会社との共同研究（平成29年）で「漆調バイオプラスチック」の開発など、先端産業との連携事業を進めてきた。

●取組内容

京仏壇・仏具の蒔絵・漆制作はもとより数多くの文化財修復も手がけるなど、漆・蒔絵において様々なオーダーをこなすことのできる技術を有する「下出蒔絵司所」と、「創造 貢献」することを通して、世の中に新しいニーズや新しい価値を提供するモノづくりに取り組む「カシオ計算機株式会社」がコラボレーション。

きっかけは、カシオのデザイナーが蒔絵の技術に興味を持ち、（地独）京都市産業技術研究所を通じた下出蒔絵司所との共同研究。同社の時計ブランドのひとつである「Elegance, Technology」を製品コンセプトにした「OCEANUS（オシアナアス）」のモデルを、下出代表が一点ずつ手作業により文字板とベゼルにプラチナ蒔絵を施した（限定1500個）。同製品の特徴は、従来の伝統的工芸品制作では表面から漆を塗り、蒔絵粉をまく通常の技法に対し、仏壇・仏具ではなく時計に蒔絵を施すため、ベゼルと文字板の裏面を処理する技法を新たに開発。（特許技術出願中）本取組にとどまらず、異なった業界・業種に蒔絵・漆の技術を取り入れて情報発信することで、伝統産業の素晴らしさを周知していくとともに、後継者育成も力を入れることで、京仏壇・仏具産地の活性化を目指している。



<https://oceanus.casio.jp/collection/ma/ta/OCW-S5000ME.html>

蒔絵の代表作



蒔絵屏風（金額寺）



漆衝立
（花の嵐山）

●下出代表からひとこと！

漆は、古来から東アジア全域で活用されおり、ヨーロッパにも広がったものです。東アジアにしかなかった天然樹液が硬化して器になる漆と日本の蒔絵の文化にキリスト教の宣教師たちが興味を持ち、やがてはマリー・アントワネットのコレクションにつながる契機となりました。

そのような歴史ある漆や蒔絵の持つ素晴らしさを時代に合わせた製品開発、異分野・異業種交流にも積極的に取り組むことで世界的に広げたいと考えています。



代表 下出様

会社概要

美術蒔絵 下出蒔絵司所 (<http://shimodeyutaro.com/>)

設立 1912年

代表取締役 下出 祐太郎

事業内容

蒔絵を中心とした制作や修理修復を活動の柱としており、印籠の修理から大型パネルの創作まで、幅広く事業を実施。文化財の調査や保存修理を手がけ、研究活動にも力を入れている。厚生労働省の「現代の名工」も受賞。即位礼、大嘗祭の神器調度蒔絵、伊勢神宮式年遷宮の御神宝に携わる。

